

ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）構築・運用における現状の課題とその解決策

課題1．リスクアセスメントの形骸化

ISMSの実効性は、リスクアセスメントに左右されると言っても過言ではありませんが、ISMS構築・運用時におけるリスクアセスメントの作業負荷がかなりかかるため、これを簡略化することによって、ISMSの特徴である114項目の管理策をリスクアセスメントに活用しきれずに、結果としてこれが形骸化しているケースが少なからず見受けられます。

これに対して弊社の提供するサービスは、情報資産相互の依存関係を考慮した重要度評価や情報資産ごとの114項目の管理策に基づく脆弱性評価等を組み込んだリスク評価手法を適用することにより、114項目の管理策を活用した実効性のあるリスクアセスメントを実現することが可能です。

課題2．情報セキュリティ継続計画の実効性

ISMSにおける情報セキュリティ継続計画は、例えばサーバー障害時の復旧手順等のようなものが一般的で、その障害がどのような業務にどのくらい影響を及ぼすかまでを分析している組織はあまり見受けられないようです。現在の企業においては情報システムは必要不可欠な経営資源になっていますので、障害が及ぼす影響までを分析し、それに基づいて情報セキュリティ継続計画を策定しなければ実効性の確保は難しいように思われます。

これに対して弊社の提供するサービスは、リスクアセスメントでの分析結果を基に影響のおよぶ業務を特定し、これらを考慮して情報セキュリティ継続計画を策定しますので、実効性のある情報セキュリティ継続計画が期待できるようになります。